

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 12 日現在

機関番号：24402

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22830062

研究課題名（和文） 専門学校教員の資質・資格に関する研究

研究課題名（英文） The Studies on Teacher's Qualifications and Quality in Specialized Colleges

研究代表者

瀧本 知加（TAKIMOTO CHIKA）

大阪市立大学・大学院文学研究科・特任講師

研究者番号：10585011

研究成果の概要（和文）：専門学校教員は教育カリキュラム作成と、生徒指導を重要な業務とし、生徒からの信頼を得ることと質の高い授業が行えることを高く評価されている。専門学校教員の資格は高等学校教員と大学教員の中間的な特徴があるが、単純に比較できず、独自の制度として分析する必要がある。専門学校教員が専門学校教育に及ぼしている影響は大きく、このような教員の資質と資格の特徴は専門学校教育全体の特徴を表していると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The important jobs of teacher in Specialized Colleges are to make out learning curriculum and student's direction. They are highly estimated by the quality of classes and obtaining student's confidence. Their qualification have intermediate feature between the high school and the university. But it's so difficult to compare these qualifications because the absence of common points. It is necessity to be analyzed as differential systems. Specialized College's teacher is the key of schools education. So that those points about teacher's qualifications and quality in Specialized Colleges show features of Specialized College's education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	460,000	138,000	598,000
2011 年度	340,000	102,000	442,000
年度			
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：専門学校論

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：専門学校 教員資格 職業教育 中等後職業教育制度 青年期教育 専修学校制度 専門職養成

1. 研究開始当初の背景

(1) 専門学校（専修学校専門課程）は高卒者の15%が進学する大学に次ぐ中等後教育機関である。専門学校は、職業に関する教育及び日常的な教養に関する教育を行うとされているが、その中心は職業に関する資格取得を

目指すなどの、具体的な職業教育である。2008年のリーマンショック以降、引き続く不況の中で、職業的な能力の低い新規学卒者の就労は厳しさを増しており、労働市場の流動化と共に、若年者雇用の不安定化は社会保障や少子化へと繋がる大きな問題となって

いる。このような状況において、職業に直接関係する教育を行う専門学校の役割が注目されつつある。

これまでの専門学校に対する研究では、専門学校の教育の効果について注目され、個別の生徒の進路や教育内容（カリキュラム）・意識面での教育効果に特に注目が注がれてきた。しかし、専門学校の教育内容や生徒は非常に多様であるため、個別の学校の教育内容や教育実践の意義や効果が見いだされたとしても、その研究の成果を一般化することが難しいという課題が残されていた。

(2) 専門学校は学校教育法一条に規定される学校ではないため、大学や高等学校等の他の学校種に比べて制度的基盤が脆弱である。この制度的基盤の脆弱さが専門学校教育の多様性に繋がっているが、選考研究においては、その教育の質を担保できないとして、否定的に論じられてきた。そのため、制度的視点から専門学校を分析したものは少なく、専門学制度の意義については明らかにされてこなかった。しかし、若年者の就労問題が顕在化し、中等後教育の再編が予想される状況において他学校との教育内容及び学校制度の比較検討が必要であり、基礎的な作業としての専門学校制度論の進展が課題となっている。

2. 研究の目的

本研究は以上の課題のふまえ、以下の目的をもって行う。

(1) 専門学校全体に共通する教育的機能や、一般化できる特徴を明らかにする。

(2) 他学校種と比較検討できる制度規程を整理し、専門学校制度の特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 専門学校教育に共通する教育内容を体現するものとして、専門学校教育の主体である教員に注目し、その役割及び重視される資質について実態調査によって明らかにし、それらを専門学校全体の特徴及び、教育の目的として整理する。

(2) 具体的な分析対象として専門学校制度の中でも、教員資格規定に注目し、その制度構造を整理し、他の学校種の教員資格規定と比較する。

4. 研究成果

(1) 専門学校教員の役割と資質

本研究では、専門学校教員とその職務に関して、京都・大阪府下の専門学校を対象として「専門学校の組織運営と教育条件に関する調査」を行った。調査の目的は以下である。

① 学校組織や教員の職務の実態を調査し、それらを専門学校の教育的機能としてとらえ、どのような原理によって教育体制が整備され、運営されているのか、という点を明らかにする。それによって、専門学校の教育の目的や内容の特徴を整理する。

② 専門学校の教育内容の多様性という従来

の研究での課題をふまえ、教育内容ではなく、専門学校全体に共通する特徴として、専門学校教員の役割とその資質を調査することによって、専門学校に共通する教育的機能を明らかにする。

【調査の概要】

本研究で行った調査の概要は以下である。

■ 調査方法：一次調査（郵送）・二次調査（訪問によるインタビュー）

■ 調査期間：2011年5月24日～2011年6月末日

■ 調査対象：大阪府・京都府内に位置する全専門学校268校

■ 回答者：専門学校の運営と実態について詳しい者（理事・校長・管理職など）

■ 回収数63校（回収率23.5%）

■ 設問の概要

- i 回答者の属性
- ii 教育組織に関する質問
- iii 教育条件整備に関する質問
- iv 教員の職務と権限に関する質問

① 以上の調査により、専門学校教員の役割は以下のように回答された。

本調査ではまず、専門学校の中で教員が担っている業務について明らかにするため、「専門学校教員の職務」について問うた。回答では、ほとんどの学校が「カリキュラム作成(62校)」及び「生徒指導(62校)」と回答した。より具体的な職務の状況について全体の業務に占める職務別の割合を聞いたところ、以下のような結果となった。

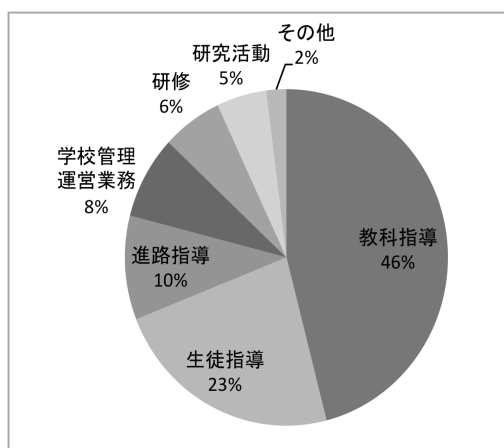


図1：専門学校教員の職務の割合

次に、学校として重視している「教員の資質」については「生徒指導能力(51校)」「実務経験(47校)」「教科指導能力(40校)」との回答であった。加えて、学校として教員を評価する際、どのような点を重視するかという「教員の評価基準」を問うたところ「生徒からの信頼(54校)」「質の高い授業(40校)」と

の回答を得た。

②調査結果のまとめ

以上の調査結果より、明らかになった結果をまとめれば以下ようになる。

1. 専門学校教員は専門学校教育の基礎である教育カリキュラムを作成している。
2. カリキュラム作成と並ぶ教員の職務は生徒指導である。
3. 実際の業務では教科指導に最も多くの時間があてられている。
4. 教員の業務のおおよそ8割が生徒への直接指導（教科指導・生徒指導・進路指導）である。
5. 専門学校において重視される教員の資質は生徒指導能力、実務経験、教科指導能力である。
6. 教員は生徒からの信頼と質の高い授業によって評価されている。

③二次調査により得られた知見

二次調査では、郵送調査の際に了解の得られた7校の専門学校に出向き、専門学校教員の実態についてインタビュー調査を行った。二次調査では、郵送調査で得られた「教科教育を中心として生徒への指導を担う教員」という専門学校教員像が実態に即したものであることが確認され、加えてそれらの資質を持った教員の採用が非常に困難であり、規制がゆるやかなことによって、柔軟に教員の確保を行っている状況が明らかとなった。

具体的には、①関係する企業及び団体から直接適任者を教員として招く、②卒業生に実務経験を積ませた後に教員として雇用する、という2つのルートによって教員を確保していた。これは、専門学校教員には、専門的知識技術だけでなく生徒への指導能力を見極める必要があることから、特定の教員養成方法を定式化せず、臨機応変に教員を採用していることが明らかとなった。

以上の調査結果を手がかりとして、専門学校全体に指摘できると思われる特徴を以下のように分析した。

④調査結果から導き出された結論

専門学校は他の学校種とは異なり、教育内容の基準が定められていないため、学校ごとの教育カリキュラムを作成することが必要である。本調査ではこの重要な役割を果たしているのが教員であり、専門学校教育の研究の中で教員を検討する重要性が改めて明らかとなった。

これに並んで日常的に教員の中心的な業務となっているのは生徒指導であり、具体的には教科指導（授業）と個別的な生徒指導・進路指導実践を通じて行われていることが明らかとなった。

これらの教員は、生徒からの信頼と質の高い授業を行うことによって高く評価されており、専門的な教科内容を生徒の理解度に合

わせた方法で教授することによって、生徒からの信頼を得るという専門学校教師像が明らかとなった。

以上より、専門学校教員の資質・能力はカリキュラムが編成できる程度の専門的な知識技術とそれらを生徒に適した形で教授することができるという生徒への指導能力の2つに分類することができた。

以上の特徴は、教育内容を問わずに得られた調査の結果から分析したものであり、専門学校という学校種全体に指摘できる傾向と考えられる。

(2) 専門学校教員と専門学校制度

専門学校教員の資格に係る規定と他の学校種（高等学校・大学）の教員資格の規定を比較し、学校基本調査のデータと照らし合わせながら、専門学校制度の特徴を検討した結果、以下の点が明らかとなった。

専門学校は厳密には中等教育段階に位置づけられる教育機関であるが、同じく中等教育段階である高等学校の教員資格に比して、取得に必要な年限が2年長いことにみられるように、中等教育機関よりも高度な教員資格を定めている。しかし、その2年間で受けるべき教育や実務経験については、細かい定めがなく、高校卒業後何らかの教育実務経験に6年従事すれば、関係する専門学校での教員資格が得られることとなっている。他方、高等教育機関である短期大学・大学と比較すると、大学は博士の学位を1つの基準として採用しており、採用の権限は大学組織の一部である教授会に付託されている。専門学校は修士学位取得程度で教員資格が得られるが、年限が定められているのみで、学位を必須としておらず、人事に関する規定も特にない。また、専門学校には他の学校と異なり、教員の職務規程が無いことも特徴である。

学校基本調査のデータからは、専門学校教員は、大学及び短期大学の教員よりも、若年や女性の教員が多い、これは看護師教育など女性が多く従事する職業に関する教育を行っている学校が多いことにその要因が考えられる。また、一校あたりの教員数も少なく、こなしている授業数も多いことから、専門学校教員には大学よりもより複雑で多様な業務をこなす必要があると考えられる。教員内容で似通っている短期大学との比較では、教員の年齢や履歴などの特徴が対照的であることがわかった。専門学校は教員規定が緩やかであるため、これら教員の特徴は、専門学校が実施する教育やそれに求められる資格によって影響されているとみることができるが若年の教員が多いことについてはより一層の検討が必要である。

専門学校制度は中等教育機関である専修学校制度に中等後の課程を設けている点にみられるように、他の学校種とは異なる原理

で制度が編成されていると考えられる。本研究においては、学校教育法及び、専修学校設置規則を精査したが、年限以外に他の学校種と共通した明確な原理は見当たらなかった。したがって、専門学校は中等教育機関とも高等教育機関とも異なる、独自の特徴をもった中等後教育機関であると評価でき、従来の教育機関とは異なるものとして位置づけ、検討する必要があることが明らかとなった。

以上、専門学校教員調査と資格要件の分析によって、専門学校教員が専門学校教育の中で果たしている役割が一定程度明らかになった。それらは、従来の専門教育機関としての専門学校への評価とは異なる側面をもつものであった。すなわち、教員には専門的な知識技術に加えて生徒指導の能力が必要であり、実際には専門的な知識技術よりも生徒指導能力を持った教員の確保が難しく、専門学校の課題として認識されている、ということである。このような教員の能力は専門学校の教育内容を体現しており、専門学校教育に共通する特徴として指摘できよう。そしてこのような教員の確保を可能とするような制度があることも重要であり、専門学校に対しては、他の学校種と同じ原理で制度の構想や改革を行うことは不適切であることも同時に指摘できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 瀧本知加 「戦後専修学校制度の成立-各種学校制度の展開-」『人文研究』(大阪市立大学大学院文学研究科紀要)、査読あり、第62巻、2011、pp77-92。

② 瀧本知加 「専修学校制度の構造と一条校との関連性」『教育学論集』(大阪市立大学大学院文学研究科人間行動専攻・教育学専攻) 査読あり、第37号、2011、pp29-39。

[学会発表] (計 件)

① 瀧本知加 「中等後職業教育学校の日独比較」大阪市立大学教育学会、第1回大会、2011年12月3日、大阪市立大学(大阪)

② 瀧本知加 「専門学校教員の実態とその資質・資格」日本教師教育学会、第20回研究大会、2010年9月25日、日本大学(東京)

[図書] (計1件)

① 瀧本知加 『専門学校の教育組織・教育条件に関する調査結果報告書』自家版、2012年3月、全16頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀧本知加 (TAKIMOTO CHIKA)

大阪市立大学・文学研究科・特任講師
研究者番号：10585011

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：